

研究区分：地域貢献

地域に根ざした健康予防（治未病）・医療拠点の大学となる試みと実働

－ 附属鍼灸センターと病院との連携の調査 －

和辻 直¹⁾，関 真亮¹⁾，日野こころ¹⁾，篠原昭二²⁾，神山 順²⁾，糸井啓純²⁾

1) 基礎鍼灸学講座 2) 外科学講座

【研究背景】日本は急速な高齢化に伴い、国民は健康に対する関心が高まっている。

医療系大学として、本学が地域に貢献するために、個人の状態やニーズに合わせた医療提供や、安全・安心でより質の高い効率的な医療サービスが求められている日本の医療を取り巻く環境に注視しなければならない。特に予防医学や伝統医学に対する再評価が行われるようになった。このため、本学では急速な高齢化の進展、国民の健康に対する関心の高まりに応えられるような、地域に根ざした健康予防（治未病）・医療拠点となるためのシステム作りが必要になっている。

【目的】これまで本学附属鍼灸センターと附属病院は連携してきた。今後、この連携がより有機的に関連し、地域に根ざした施設となるためには活用状況を調査し、来院患者の考えを把握することが必要である。その一つの試みとして附属鍼灸センターの患者を対象に、来院したきっかけ、附属病院との併用状況などを調査することにした。

【方法】調査対象は、本学附属鍼灸センターの来院患者さんに本調査の目的や主旨を説明して、本調査の同意を得た患者さんに待合室にて実施した。調査手順は、1) 本研究の主旨にあった調査票（9 問の調査票）を独自に作成した。2) 本研究の主旨を理解した調査員が、調査に同意を得た患者さんにアンケート調査票を答えてもらった。なお学内の研究倫理委員会の承認を得た。

【結果】調査対象は 136 名であり、男性 55 名、女性 81 名であった（平均年齢：68.1±15.4 歳）。

アンケート結果

1. 鍼灸センターに来院された愁訴を複数回答可で尋ねたところ、最も多かったのが、「腰痛」81 名（25.4%（対のべ回答数、以下同））、次に「肩こり」45 名（14.1%）、「膝痛」38 名（11.9%）であり、この上位 3 つで約 50%を占めた。

2. 鍼灸センターに来院したきっかけは、「人の紹介」が 134 名、「関連施設を利用して知った」が 23 名、「広告で知った」が 12 名であった（複数回答）。また、きっかけが複数ある場合に、順位付けで上位 3 を尋ねた結果、「知人の紹介」が最も多く 37 名（21.9%）、「附属病院の医師」31 名（18.3%）、「本人の意思」24 名（14.2%）、「親類」19 名（11.2%）であった（図 1）。

3. 鍼灸センターを選択した理由で 1 番目として挙げているのは、「鍼灸師の質が良いから」38

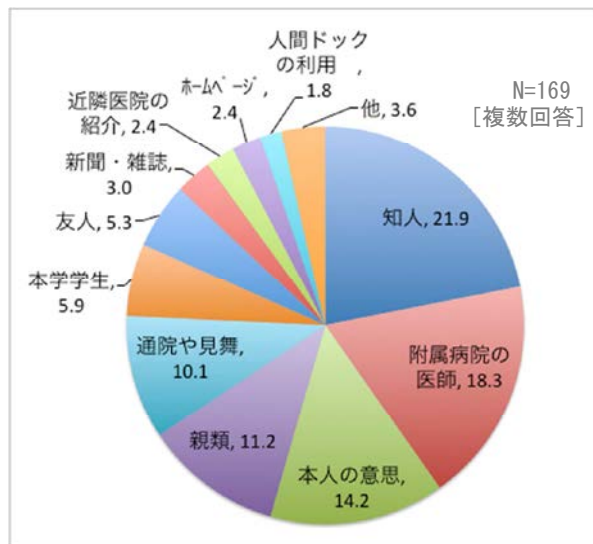
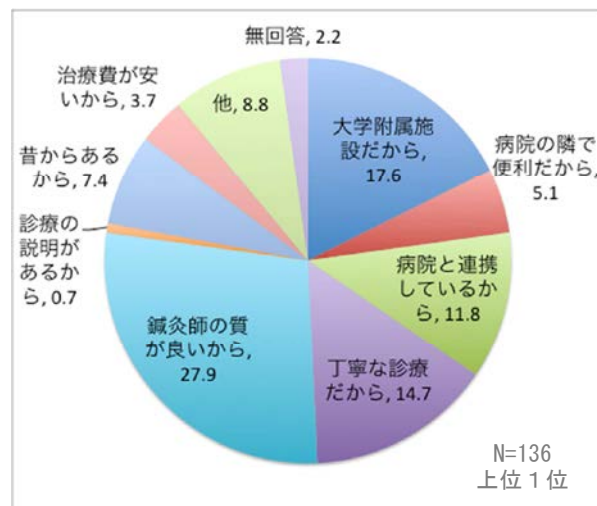


図 1. 附属鍼灸センターに来院されたきっかけ

図 2. 附属鍼灸センターを選択した理由
(全対象の上位 1 位の理由)

名（27.9%）、「大学附属施設だから」24 名（17.6%）、「丁寧な診療だから」20 名（14.7%）、「病院と連携しているから」16 名（11.8%）となった（図 2）。また上位 3 位の理由を合わせて集計したところ（全答 258）、「鍼灸師の質が良いから」24.0%、「丁寧な診療だから」19.4%、「大学附属施設だから」13.2%、「病院と連携しているから」12.0%、「病院的隣で便利だから」7.3%となった。鍼灸師の質ともに病院と連携していることが選択理由として挙げられていた。

4. 鍼灸センターに来院する場合に、合わせて利用している施設は、複数回答（全答 126）で「附属病院」が 64 名（50.8%）あり、「附属病院 5 階レストラン」50 名（39.7%）であった。また附属病院を選んだ方に、受診科を尋ねた結果は、「整形外科」40 名（27.6%）、「内科」33 名（22.8%）でほぼ 50%となり、次いで「眼科」20 名（13.8%）であった。

5. 鍼灸センターと附属病院との併設についての良さを尋ねたところ、「とても良い」52 名（38.2%）、「良い」66 名（48.5%）と約 85%の方が良いと答えていた（図 3）。

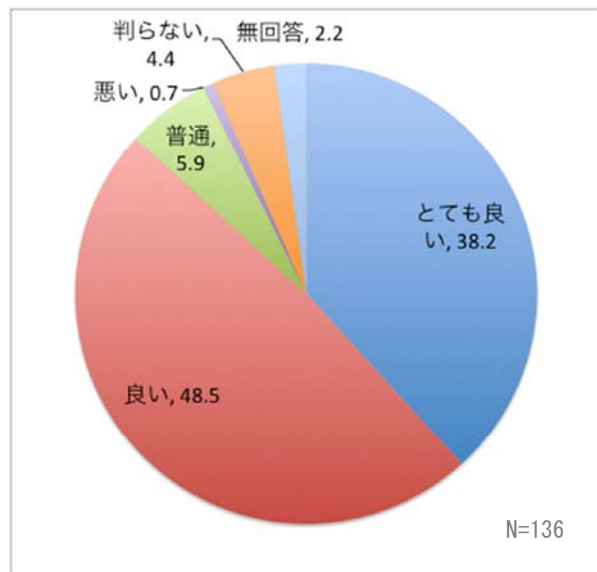


図 3. 附属鍼灸センターと病院との併設の良さ

6. 附属鍼灸センター主催の「市民公開講座」の認知度を尋ねた結果は、「知っている」43 名（31.6%）、「知らない」89 名（65.4%）であった。また、知っている方に参加経験があるかどうかを尋ねたところ、参加経験「あり」が 9 名（6.6%）、「なし」が 48 名（35.3%）であり、認知はしていても実際に参加者が少ないことが判った。

7. 今後「市民公開講座」への参加意思を尋ねた結果、「参加する」11 名（8.1%）、「日程があれば参加する」44 名（32.4%）であり、参加を考えておられる方が約 40%あった。一方、「参加しない」32 名（23.5%）であるものの、「どちらともいえない」が 43 名（31.6%）となっていた。

【考察】本学の地域貢献する一つの方法として、地域に根ざした健康予防（治未病）・医療サービスを提供することと考えている。それを実現していくには、来院患者における附属施設の利用状況やニーズを把握することが重要であると思われる。そこで、附属鍼灸センターの来院患者に、来院したきっかけ、附属病院との併用状況などを調査した。

来院したきっかけは、人の紹介が多く約 8 割を占め、その中で知人の紹介が最も多く、次で「附属病院の医師」が多かった。鍼灸センターの選択

理由では「鍼灸師の質が良いから」が最も多く、「病院と連携しているから」も多かった。また鍼灸センターに来院する場合に、合わせて利用している施設は、附属病院が半数と最も多かった。このことから、当然なことであるが附属鍼灸センターと附属病院との連携が重要であることを判った。なお来院のきっかけが、人の紹介以外に繋がっていない可能性が高く、別の媒体による来院のきっかけを活用すれば、患者の増加を見込める可能性が高いことが考えられた。

鍼灸センターと附属病院との併設の良さでは、「とても良い」が 4 割弱、「良い」が 5 割弱と 9 割弱の方が「良い」と答えており、患者のニーズとして病院併設が重要であることが判った。このことが本学の医療施設の特徴を表しており、地域貢献するには、これらの医療施設をうまく活用することが重要であると再確認できた。今後は、附属病院の患者を対象に同様なアンケートを行うことで、附属病院からみた附属鍼灸センターとの関係などの状況が判ると思われる。

附属鍼灸センター主催の「市民公開講座」は重要な地域貢献の一つである。本アンケートの「市民公開講座」の認知度は、対象 3 割で予想よりも低かった。市民公開講座の認知度を高めることで、附属鍼灸センターや附属病院を知る機会や通院のきっかけになると考えられた。今後の市民公開講座の開設では、「市民公開講座」の内容や告知方法、開催場所などを検討することで、より多くの方に参加していただける可能性を含んでいると思われる。

【結語】本学が地域貢献の可能性を調査するために本学附属鍼灸センターの患者を対象に、来院したきっかけ、附属病院との併用状況などを調査したところ、以下の結果を得た。

1. 鍼灸センターに来院したきっかけは、知人の紹介と附属病院の医師による紹介など、人による紹介が 8 割弱を占めていた。
2. 鍼灸センターを選択した理由は、「鍼灸師の質の良さ」が最も多く、「病院との連携」も多かった。また鍼灸センター来院患者の半数が病院を利用していることから、病院との連携が重要であることが判った。
3. 鍼灸センターと附属病院との併設は、9 割弱の方が「良い」と答え、患者のニーズとして病院併設が重要である。これは本学の医療施設の特徴を表し、地域貢献するには、これらの医療施設をうまく活用することが重要であることが再確認できた。

【謝辞】本研究に際して、御協力をいただいた本学附属鍼灸センターのセンター長 北小路博司教授に貴重なご助言、ご指導をいただき、心より感謝申し上げます。また本調査に協力をいただきました鍼灸センター担当者に感謝申し上げます。最後に当研究に協力をいただいた大学院生の内藤玄吾、森田智氏に感謝いたします。

【論文及び学会発表】

第18回日本統合医療学会, 2014. 発表予定